



発掘速報 あいかんがいせき 赤井官衙遺跡 ざいもくべい で材木堀発見

赤井地区北部の圃場整備にかかわる発掘調査で、材木堀と大溝の跡が見つかりました。

材木堀は径 25cm ほどの丸太の柱（多くはクリ材）を立て並べたもので、昨年3月の調査で見つかったものを合わせると、遺跡の北側を少なくとも 600m にわたって材木堀と大溝で区画していたことがわかりました。同様のものは、本谷・川前地区の遺跡の東辺および南東部でも見つかっており、赤井官衙遺跡全体を囲っていたものと思われます。

一般的に外郭を囲う材木堀は、3～4m くらいの高さがあったと考えられています。今回見つかった北辺だけでも、単純に計算すると 2,400 本の丸太の柱が使われていたこととなります。それで東西約 1.7km、南北約 1 km の範囲を囲うわけですが

おしかのさく 牡鹿柵 がいかく の北辺の外郭施設！

ら、川で途切れていた場所があったにしても、相当な本数の丸太材が必要となります。木の伐り出しから運搬、加工、設置までには、多大な労力と時間を費やしたことでしょう。

赤井官衙遺跡は蝦夷政策の拠点となった城柵「牡鹿柵」、または古代牡鹿郡の役所「牡鹿郡家」と考えられています。当時の牡鹿郡は蝦夷の人々が暮らす地域との境界に位置しており、こうした施設はまさに当時の蝦夷との緊張状態を示しています。材木堀は外部からの侵入を防ぐ防御施設としてつくられましたが、同時に官衙（役所）全体を高い堀で囲う威容さは、蝦夷の人々に対して中央国家の威信を示すものであったと思われます。



上・中：今回見つかった材木堀と大溝の跡
下：川前地区の材木堀

講演会・現地説明会に多くの市民が注目！



2/18 史跡講演会

2月18日赤井市民センターで史跡講演会「赤井官衙遺跡群のどこがすごい!?」を開催し、会場は満員となりました。長年、赤井官衙遺跡群の発掘調査に携わってきた佐藤敏幸氏を講師にお招きし、赤井官衙遺跡群の発掘の歴史のほか、全国の事例を紹介しながら「城柵とは何か?」をご説明いただきました。

2月25日、今年度の赤井官衙遺跡群の発掘調査成果を現地で公開する「現地説明会」を開催し、考古学ファンが集まりました。上記発掘速報でお伝えした「北辺の外郭施設跡」を実際に見学していただきました。



2/25 現地説明会

学芸員が語る、市内遺跡の最新情報！

東松島市遺跡報告会

『東松島を掘る！』

東松島市内の主な遺跡「里浜貝塚」「赤井官衙遺跡群」「江ノ浜貝塚」「野蒜築港跡」などの最新の調査成果を報告します。

6.15 Sat に変更

第1回 6.16 Sun 13:00-15:00

会場 野蒜市民センター

第2回 6.30 Sun 13:00-15:00

会場 赤井市民センター

講師：当市学芸員

予約不要・入場無料

※両日も同じ内容で行います。

ご都合の良い日にご参加ください。

イベント参加者募集中！



現在、令和6年度のイベント参加者を募集中です。イベントの詳細は、縄文村公式ホームページ、または縄文村および市内各施設に設置の「縄文村イベントカレンダー」をご覧ください！

※なお、3月中旬に満員となったイベントもございます。（キャンセル待ちでお受けしています）



HP